

2020年度 学部4年生対象 卒業時における学修成果に係る自己評価アンケート結果

【設問】大学生生活全般を振り返り、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)に掲げている能力や知識が、どの程度身についたかを回答してください。(2021年2月調査実施)

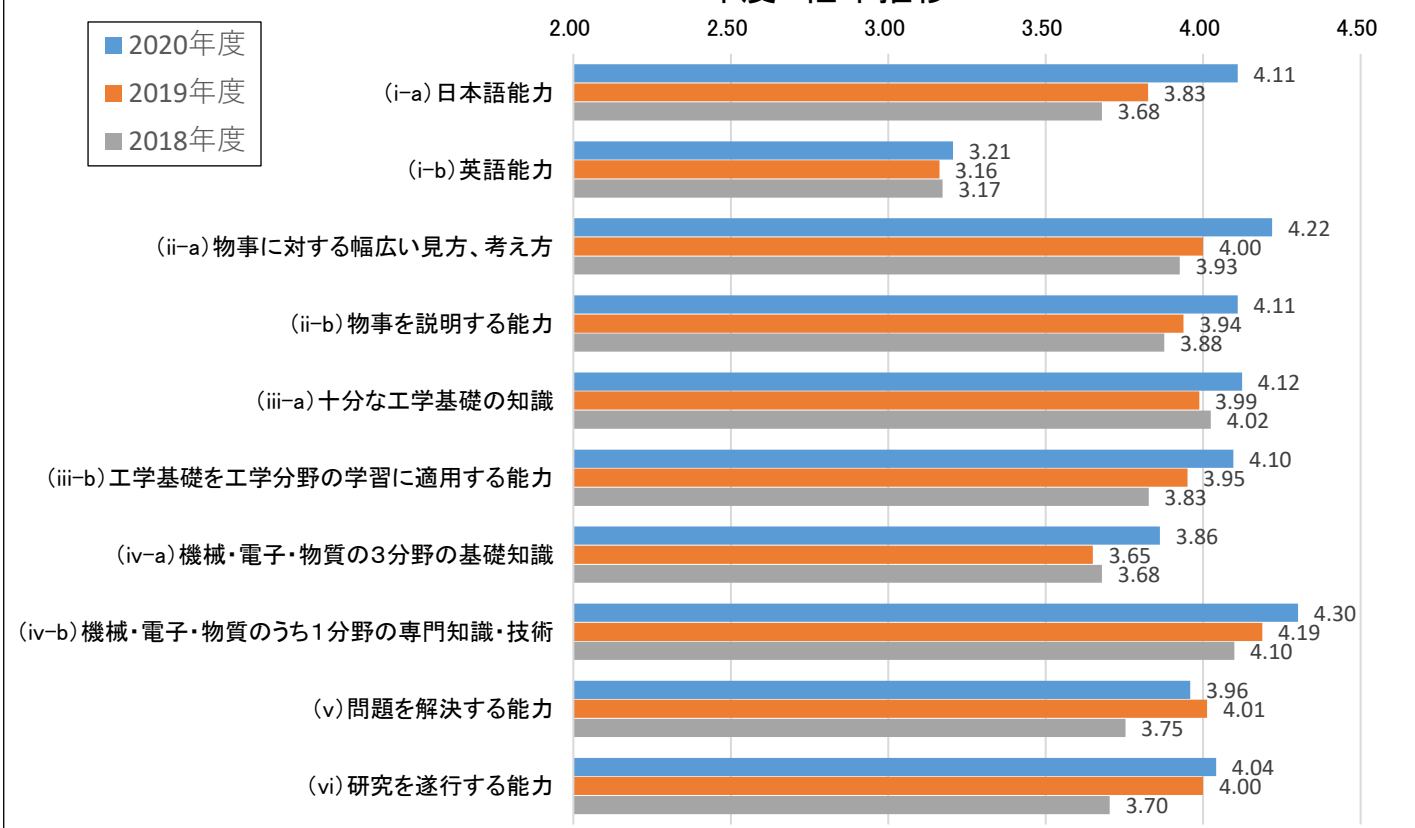
＜主な活動・出来事＞

1年次全寮制、講義・演習・実験・実習科目、教養科目、単位互換科目、英語科目、工学基礎科目、専門科目、学外実習、主専攻・副専攻履修、定期試験、レポート作成、TOEICスコア、E-SUP制度、iPlaza活動、海外英語演習、課外活動(同好会・天樹祭・アクティブチャレンジ)、アカデミックアドバイザー・指導教員の指導、課題研究・卒業研究、研究発表会、就職活動 など

【回答集計】

2020年度	回答率83%(回答者数73名/卒業者数88名)					回答数	平均
	身についた (5点)	まあ身についた (4点)	どちらとも言えない (3点)	あまり身につかなかった (2点)	身につかなかった (1点)		
(i-a) 日本語能力	23	37	11	2	0	73	4.11
(i-b) 英語能力	13	18	18	19	5	73	3.21
(ii-a) 物事に対する幅広い見方、考え方	25	40	7	1	0	73	4.22
(ii-b) 物事を説明する能力	20	44	6	3	0	73	4.11
(iii-a) 十分な工学基礎の知識	21	41	10	1	0	73	4.12
(iii-b) 工学基礎を工学分野の学習に適用する能力	17	46	10	0	0	73	4.10
(iv-a) 機械・電子・物質の3分野の基礎知識	12	43	15	2	1	73	3.86
(iv-b) 機械・電子・物質のうち1分野の専門知識・技術	31	34	7	1	0	73	4.30
(v) 問題を解決する能力	21	33	15	3	1	73	3.96
(vi) 研究を遂行する能力	19	42	9	2	1	73	4.04

2018-2020年度 経年推移



【結果考察】

- ・調査対象の2020年度4年生は、コロナ禍で4年次の講義は全てオンライン受講、出校しての研究活動は8/17からとなった。
 - ・2018年度の調査開始以来、評価は上昇傾向にある。(大きなカリキュラム変更はなし、教員個々の授業改善は推進)。
 - ・英語能力以外の評価はいずれも4.0程度以上で、学生は学修成果を高く評価している。
 - ・英語能力は4.0を大きく下回っており、例年同様に厳しい自己評価となっている。
- データ上は、TOEICスコア平均値は、入学時(463点)→卒業時(566点)へと100点超の向上が見られる。